

古墳群の出土品

吉岐の古墳から発見された多くの遺物は、6世紀から7世紀にかけての吉岐と日本本土、朝鮮半島、中国との活発な交流を示唆している。

最も大きな古墳は、当時日本列島を支配していた大和政権のために戦った高級武士のために造られたと考えられている。出土品には、刀剣、金属製鍬、馬具類などが多く含まれている。なかでも笹塚古墳から出土した、馬の額を飾ったと思われる金銅製の亀形の飾金具は注目される。大和の都（現在の奈良県）付近からも同様のモチーフのものが出土しており、中央集権国家との関係がうかがえる。また、大和政権の武将のものと考えられるものとして、鳳凰をかたどった金銅製の剣の柄が注目される。この剣の柄は、吉岐の中心部に位置する最大級の古墳、双六古墳から出土したものである。

双六古墳から出土した中国北齊の彩陶碗や朝鮮半島新羅の香炉などは、当時としては大変貴重なものであった。大陸との交易に影響力のある王や酋長が持っていた可能性が高いのである。大和の敵である新羅からの出土品の存在は、吉岐の人が新羅と独自の商業関係を築き、新羅と大和朝廷の仲介役を果たした可能性を示唆している。